

# 口腔インプラント学 学術用語集

第4版

公益社団法人  
日本口腔インプラント学会 編

Academic Terms of Oral Implantology 2020  
Japanese Society of Oral Implantology



Japanese Society  
of Oral Implantology

医歯薬出版株式会社

アバットメントには、回転防止機構や角度の付いたものもある。また、セメント固定に対応したアバットメントには、直接上部構造をセメント固定する既製アバットメントやある程度自由な形状を付与できるカスタムアバットメントがある。

### 30 アバットメントアナログ

あばつとめんとあなるぐ

abutment analog (analogue)

**同義語** アバットメントレプリカ

上部構造製作に使用されるアバットメントを複製した技工用の部品のこと。口腔内のインプラント体にアバットメントを装着した状態で印象用コーピングを用いて印象採得を行い、アバットメントレベルの作業用模型を製作する際に用いられる。また上部構造の製作過程においてマージン部の研磨の際に用いられることもある。

### 31 アバットメント-インプラント体界面

あばつとめんといんぷらんとたいかいめん

abutment-implant interface

⇒ **116** インプラント体-アバットメント界面

### 32 アバットメントコネクション

あばつとめんとこねくしょん

abutment connection

アバットメントをインプラント体に連結すること。骨内インプラント体とアバットメントの連結様式から、エクスターナルコネクション型とインターナルコネクション型、テーパーのあるテーパージョイント型とテーパーのないバットジョイント型がある。

### 33 アバットメント材料

あばつとめんとざいりょう

abutment material

アバットメントに使用される生体材料のこと。材質は歯肉上皮細胞の付着に影響すると報告されており、かつては合金なども用いていたが、近年では主にチタン合金、チタン、セラミックス（ジルコニアなど）などが使用されている。

### 34 アバットメントシャフト

あばつとめんとしゃふと

abutment shaft

アバットメントの嵌合軸部のこと。インプラント体内面に形成されたテーパー形の嵌合穴部に連結する。

### 35 アバットメント除去器具

あばつとめんとじょきょきぐ

abutment retrieval instrument

インプラント体に連結したアバットメントを除去する専用器具のこと。インプラント体とアバットメントの連結機構がインターナルコネクションでテーパードタイプの場合、一度アバットメントを締めつけると、テーパー嵌合の効果で除去が困難になる。そのため、アバットメントをインプラント体から外す必要が生じた場合、特殊な器具が必要になる。

### 36 アバットメントシリンダー

あばつとめんとしりんだー

abutment cylinder

**関連語** UCLA アバットメント

アクセスホールを形成するシリンダー形状の構造体のこと。インプラント体に直接連結するものと、アバットメントを介して連結するものがある。プロビジョナルレストレーションの製作に使用する場合には、チタン製またはプラスチック製のものが使用される。インプラント体に直接連結するタイプで、焼却可能なレジンプラスチックで作られたアバットメントシリンダーを特にUCLAアバットメントとよんでいる。

### 37 アバットメントスクリュー

あばつとめんとすくりゅう

abutment screw

インプラント体にアバットメントや上部構造を連結するためのねじのこと。

### 38 アバットメント破折

あばつとめんとはせつ

abutment fracture

インプラントのメンテナンス中のトラブルの一つで、アバットメント自体の破折のこと。

### 39 アバットメントレベル

あばつとめんとれべる

abutment level

**関連語** インプラントレベル、骨レベル

インプラント体埋入後、印象採得から上部構造装着までの補綴治療をインプラント体ではなく、連結されたアバットメントを基準とすること。

### 40 アバットメントレベル印象

あばつとめんとれべるいんしょう

abutment level impression

⇒ **137** インプラントレベル印象

**200 下顎骨貫通式インプラント**

かがくこつかんつうしきいんぷらんと

transmandibular implant

**同義語** ステープルボーンインプラント, 骨貫通型インプラント

下顎骨のオトガイ部を下縁から頂部まで貫通するインプラントのこと。下顎骨下縁に適合させるアーチ型のプレートと基底骨から顎骨頂部に向けて挿入する固定スクリューからなる。固定スクリューの先端は口腔内に露出し、補綴装置のアバットメントとして使用される。手術は口腔外からのアプローチにより行われる。

**201 下顎枝** かがくし

mandibular ramus

下顎骨の下顎角から上方かつ臼後部から後方の部分をさす。上方は筋突起と関節突起に移行する。内面中央には下顎孔がある。そこから前方に向けて下顎管が骨内を走向する。内面下方部は翼突筋粗面、外面下方部は咬筋粗面がある。下顎枝頰側皮質骨はベニアグラフトやオンレーグラフトのためのブロック骨採取に利用される。

**202 下顎神経ブロック** かがくしんけいびろく

mandibular nerve block

**関連語** 神経ブロック

特発性三叉神経痛に対する治療法の一つである。下顎神経が頭蓋底の卵円孔から出た部分で100%エタノールまたは高濃度麻酔薬の注入、高周波熱凝固によって下顎神経を破壊する。効果の持続時間は1年半～2年である。

**203 過換気症候群** かがんきしょうこうぐん

hyperventilation syndrome

**同義語** HVS

精神的緊張や身体的ストレスが原因で発作的に呼吸困難を訴えて過換気となる症候群である。呼吸数および1回換気量の増大から分時換気量が増大する。過呼吸により動脈血二酸化炭素分圧の低下、pHの上昇が起こる。動脈血二酸化炭素分圧の低下は脳血管収縮、脳血流量減少を起こす。さらに、呼吸性アルカローシスは血清中のイオン化カルシウムの低下を招き、手指の硬直などのテタニー症状を呈する。処置として、まずゆっくりとした呼吸を指示する。最近では、紙袋再呼吸法は積極的には推奨されない。

**204 角化上皮** かくかじょうひ

keratinized epithelium

重層扁平上皮のうち最表層に角質層が存在する上皮である。口腔粘膜上皮においては、歯肉の接合上皮、歯肉溝上皮および歯槽粘膜上皮は角化していないが、付着歯肉上皮は角化している。

**205 顎下腺窩** がかせんか

submandibular fovea, submandibular fossa

下顎骨大白歯部にあり、顎下腺の存在する位置に相当する骨陥凹をいう。パノラマエックス線写真では判読しづらい。インプラント手術に際しては、舌側に穿孔しないように注意が必要である。

**206 角化粘膜** かくかねんまく

keratinized mucosa

⇒ **207** 角化付着粘膜**207 角化付着粘膜** かくかふちやくかねんまく

keratinized attached gingiva

**同義語** 角化粘膜**関連語** 付着粘膜

無歯顎部において表層の上皮が角質化している粘膜組織のこと。臨床的にはインプラント周囲に非可動性の角化粘膜が存在することにより、外力や細菌の刺激に対する周囲組織の抵抗性が増し、インプラント体がより安定することが期待されている。

**208 顎顔面補綴** がかがめんほてつ

maxillofacial prosthesis

**類義語** エピテーゼ, プロテーゼ

腫瘍や外傷、炎症、あるいは先天性形成不全などが原因で、顔面または顎骨とその周囲組織に大きな欠損が生じた場合に、これらの欠損を非観血的に、人工修復物を装着して失われた機能や形態の回復を図ることをいう。顔面部の欠損を補うものを顔面補綴といい、身体の表面に取り付けるものをエピテーゼとよぶ。顔面エピテーゼには、眼窩部エピテーゼ、耳介エピテーゼなどがある。また、口腔内の顎骨を含めた欠損を義歯で補うものを顎補綴といい、身体の中に埋入する人工物をプロテーゼとよぶ。エピテーゼ、プロテーゼの維持には、身体欠損部のアンダーカットや眼鏡などを補助として用いている方法。さらにアンダーカットのない欠損に対しては、その周囲にインプラントを埋入して、エピテーゼ、プロテーゼを強固に維持する方法がある。

**466 再生医療** さいせいりりょう

regenerative medicine

**同義語** 再生医学

臓器や組織の欠損あるいは機能障害、不全に陥った際に、その臓器や組織の機能回復を目指す医療をいう。

**467 再石灰化** さいせっかいか

remineralization

正常に形成された歯が何らかの原因によりエナメル質の表層が脱灰された後、唾液中に含まれるリン酸カルシウムにより修復される現象をいう。

**468 最大開口量** さいだいかいこうりょう

maximum mouth opening

**関連語** 開口障害

閉口位から最大開口位まで開口したときの上下顎中切歯切端間の距離のこと。

**469 最大咬合力** さいだいこうごうりょく

maximum bite force

可能な限り強く噛みしめた場合に、上下顎の咬合面に発現する力のこと。咀嚼能力との関連が深いことが知られており、顎口腔機能のパラメータの一つである。

**470 サイトカイン** さいとかいん

cytokine

細胞から放出され、細胞間情報伝達を担う物質である。細胞膜上にある受容体に結合して、生化学的あるいは形態学的な変化を引き起こす。インターロイキンやケモカイン、細胞増殖因子などさまざまな種類があり、中でも上皮成長因子 (EGF)、線維芽細胞増殖 (成長) 因子 (FGF)、血小板由来成長因子 (PDGF) などが知られている。

**471 サイドスクリュー** さいどすくりゅー

side screw

インプラント上部構造を固定する目的で、アバットメントを内冠、上部構造を外冠として、外冠軸面に開けられたアクセスホールからスクリューを連結する構造のこと。咬合面にスクリューが露出しないため咬合面形態に影響しない、装着材料が不要、術後のメンテナンスが容易などのメリットがあるが、適合には技工操作において非常に高い精度が求められる。

**472 サイナスフロアエレベーション**

さいなすふるあえれべーしょん

sinus floor elevation

⇒ **619** 上顎洞底挙上術**473 サイナスリフト** さいなすりふと

sinus lift

⇒ **619** 上顎洞底挙上術**474 再付着** さいふちやく

reattachment

切開または外傷により健全な歯根面から離断された歯肉結合組織が、再び歯根面に付着すること。

**475 細片骨移植** さいへんこつししょく

particulate bone graft (s), bone chips graft (s)

**同義語** 顆粒骨移植**関連語** 移植 [術, 法], 骨細片

採取した骨片を細かく砕いた状態で行う移植のこと。細片骨移植のみではなく GBR を同時に応用し、移植部を覆うことで形態を整え、細片骨が流出しないようにすることもある。

**476 細胞接着** さいぼうせつちやく

cell adhesion

細胞同士の結合あるいは細胞と基質の結合をいう。臓器および組織は細胞同士が結合して機能を営んでおり、その形態学的あるいは機能的な接着様式により、アドヘレンスジャンクション、タイトジャンクション、デスマゾーム結合、ヘミデスマゾーム結合、ギャップジャンクション、フォーカルコンタクト、フォーカルアドヒージョンなどが存在する。これらの細胞接着にはカドヘリンやインテグリン、ヴィンキュリン、デスマグレインなどのさまざまなタンパク質が関与している。

**477 細胞増殖《成長》因子**

さいぼうぞうじょく《せいちょう》いんし

cell growth factor

⇒ **470** サイトカイン**478 細胞分化** さいぼうぶんか

cell differentiation

細胞ごとに遺伝情報が発現し、特定の形態や機能が生じること。例えば重層扁平被覆上皮では基底細胞から有棘細胞、顆粒細胞、角質へと進むことをいう。また、前骨芽細胞がコラーゲンを分泌、石灰化を起し、骨形成細胞に変化することなどをいう。

**951 粘膜パンチ** ねんまくばんち

mucosal punch

⇒ **875** ティッシュパンチ**952 粘膜弁** ねんまくべん

mucosal flap

**同義語** 部分層弁, 部分層歯肉弁, パーシャルシクネスフラップ, スプリットシクネスフラップ**関連語** 粘膜骨膜弁

粘膜の上皮と結合組織の一部からなり, 骨膜を骨に残して形成される歯肉弁である. 一般的に遊離歯肉移植術, 結合組織移植術, 歯肉弁移動術 (側方, 歯冠側, 根尖側) などの歯周形成手術 (歯肉歯槽粘膜形成術), インプラント治療のティッシュマネジメントに用いられる.

## の

**953 ノンサブマージドインプラント**

のんさぶまーじどいんぷらんと

non-submerged implant

⇒ **72** 1 回法インプラント**954 ノンセグメントタイプ** のんせぐめんとたいぷ

non-segment type

**関連語** UCLA アバットメント

インプラント体と歯冠修復装置 (上部構造) が直接スクリューで連結されている様式のこと. インプラント体と歯冠修復装置の間に, 何らかの独立した構造体 (アバットメントなど) が介在する様式をセグメントタイプという.

## は

**955 バーアタッチメント** ばーあたっちめんと

bar attachment

**関連語** アタッチメントシステム, ボールアタッチメント, ロケーターアタッチメント, 磁性アタッチメント

インプラント-インプラント間を既製 (ドルダーバーアタッチメントなど) または自家製の金属製バーで連結し, 義歯内面に装着されたクリップアタッチメントやスリーブがバーに嵌合し義歯を維持および支持するアタッチメントのこと.

**956 ハーバード会議** はーばーどかいぎ

Harvard Conference

**類義語** トロント会議

ハーバード大学とアメリカ国立衛生研究所の共催で1978年に開催された初のインプラント治療のコンセンサス会議のこと. この会議はインプラント治療のデータ収集と分析の評価基準と標準が確立された象徴的な会議であったと評価されている.

**957 バイオエンジニアリング**

ばいおえんじにありんぐ

bioengineering

**同義語** 生物工学

生物学の知見をもとにし, 実社会に有用な利用法をもたらす技術の総称であり, 特に, 生物のもつ機能や構造, 運動機構, 運動性能を模倣または利用して, 実用的な材料を生み出す技術として認識されている. 例えば, 生物の行う反応を工業規模で行ってエネルギーを取り出したり, 新しい物質を作ったりする技術などが提唱されている. 医療や創薬分野への工学技術の応用もバイオエンジニアリングといわれている.

**958 バイオガラス** ばいおがらす

bioglass

⇒ **706** 生体活性ガラス**959 バイオフィルム** ばいおふいるむ

biofilm

**同義語** 細菌性バイオフィルム**類義語** プラーク

菌体外多糖よりなるグリココッカスに覆われた細菌の凝集塊がフィルム状に付着した細菌集合体である. バイオフィルム中の細菌は共生, 共存して, 好中球などによる食作用を防ぎ, 抗菌薬に対して抵抗性を示す. 狭義ではプラークと同義語と考えるとよい.

**960 バイコルチカル** ばいこるちかる

bicortical

コルチカルとは, 「皮質骨の」という意味で, インプラント埋入に際して, インプラント頸部と尖端部の2カ所を皮質骨で固定する手技である. 周囲組織への侵襲に伴う併発症に注意する必要がある.

**961 胚性幹細胞** はいせいかんさいぼう

embryonic stem cell

⇒ **52** ES細胞

## 付録 インプラントシステム等商品名一覧

(2019年8月現在, 本学会賛助会員の協力により作成. 英文末尾の記号は下記メーカー名の略)

AI : 愛知製鋼(株), AL : (株)アルタデント, B : (株)ブレンベース, BM : (株)BMS JAPAN, C : (株)カイマンデント  
 ル, DI : DIO デジタル(株), DS : デンツプライシロナ(株), DT : (株)デンタルチタニウム技研, GC : (株)ジーシー,  
 HH : (株)白鷗, HS : 白水貿易(株), HU : ヒューフレディ・ジャパン(同), IM : (株)インプラテックス, IT : 伊藤超短  
 波(株), K : ケンテック(株), KC : 京セラ(株), KK : 京都機械工具(株), MO : (株)モリタ, NE : ネオス・ジャパン(株),  
 NO : ノーベル・バイオケア・ジャパン(株), NP : 日本ピストンリング(株), O : (株)OSSTEM JAPAN, P : (株)ブラ  
 トンジャパン, S : ストロマン・ジャパン(株), SF : 松風バイオフィックス(株), W : 和田精密歯研(株), YA : 山  
 八歯材工業(株), YO : (株)ヨシダ, YS : (株)ヨシオカ, Z : ジンマー・バイオメット・デンタル(株).

※(株)白鷗とジンマー・バイオメット・デンタル(株)は2020年4月付で合併

インプラントシステム		
RBT	Resorbable Blast Texturing	C
IAT インプラントシステム	IAT Implant System	NP
IAT EXA	IAT EXA	NP
IAT EXA PLUS	IAT EXA PLUS	NP
IAT FIT II	IAT FIT II	NP
IS- II active	IS- II active	W
アクティブボーンコントロール	ActiveBone Control™	DS
アストラテックインプラントシステム	Astra Tech Implant System®	DS
アストラテックインプラントシステム EV	Astra Tech Implant System® EV	DS
アストラテックインプラントシステム バイオマネージメントコンプレックス	Astra Tech Implant System BioManagement Complex®	DS
アルファタイトインプラント	Alphatite Implant	K
アンカーサーフェス	Aanchor Surface™	GC
アンキロス インプランティング ティッシュケア	Ankylos® Implanting TissueCare	DS
アンキロス C/X インプラント	Ankylos® C/X Implant	DS
iSy インプラントシステム	iSy Implant System	AL
ED サーフェス	ED Surface (Wire-type Electric Discharge Machining Surface)	NP
インタラクティブ システム	InterActive System	IM
HSA	HSA	DI
エイトローブ インプラントシステム	Eight-Lobe Implant System	P
エイトローブ プロ インプラントシステム	Eight-Lobe Pro Implant System	P
エクストリーム	X-Stream™	S
エクスターナル ヘクス コネクション インプラント	External Hex connection implant	Z
エスアールエー	SRA	S
SAI	Sandblasted Acid Etching Ion Bombard	YS
SS SA フィクスチャ	SS SA (Sand Blasted with alumina and Acid etched) fixture	O
SS-type	SS-type	K
SLActive サーフェイス	SLActive® Surface	S
SLA サーフェイス	Sandblasted, Large grit, Acid-etched (SLA®) Surface	S
SPI システム エlementインプラント	SPI® System Element Implant	MO
SPI システム コンタクトインプラント	SPI® System Contact Implant	MO
SB-type	SB-type	K